

# 地域再生プロジェクト計画書

市町村名	松前町	単一実施
------	-----	------

地域再生プロジェクト名	「松前町協働のまちづくり推進プロジェクト」	格差の分野	格差の分野：地域経済、社会構造の格差
地域再生プロジェクトの期間	19年度～23年度		

## 【地域の課題及び地域再生プロジェクトの目標】

藩政時代からの歴史的背景をもつ松前は、古くから「お互い様」という助け合いの言葉が使われてきた地域であり、幾歳を重ね、自らの地域を守り育ててきた。しかし近年は、過疎と少子高齢化、第一次産業の不振や従事者の減少、さらには購買力の流出などにより、地域の活力や連帯力もが失われつつあり、近い将来、地域社会の維持すら困難となることも懸念されている。

町財政も健全化への途上にあり、投資的経費どころか、生活インフラや福祉などの義務的経費の捻出すらままならない状況にある。しかし、この状況を打開するためには、新たな産業振興策や、地域社会がもつ潜在力を煥発した町をあげての地域振興策を講じることが必要であり、町は、行政と住民の役割分担の見直しを図りつつ、「協働」の理念により、水産資源や観光資源といった地域資源を活かした地域経済の活性化を推し進め、町民生活の下支えをしながら、教育の充実や雇用の安定、さらには、福祉の充実を図っていく考えにある。

これらの課題解決には、官民挙げての対応が不可欠との考え方により、本年5月、町内126団体による「協働のまちづくり推進協議会」が結成され、一万人の町民の一致団結により、地域の明日を築いていくことが確認されたところである。当地域再生プロジェクトは、地域資源を活かす産業振興や教育の再生、さらには環境美化や福祉問題と、多岐にわたる事業メニューの構成としたが、そのいずれもが、上述の地域課題が背景となって現出している事象であり、これら事業の遂行に当たっては、当協議会とその傘下団体が主体的役割と実践を担っていくこととなる。

本プロジェクトの目標は、当町において都市部との格差が顕著になっている地域経済及び社会構造における建て直しを図るとともに、郷土愛や連帯意識に裏打ちされた田舎町ならではの、ぬくもりや優しさを育てていくことにあるが、この方向性は、20年度から始まる松前町総合計画と帰を一にするものであり、本プロジェクトとの連携により、事業効果を上げていくことができる。

北海道が唱導する「自主自立による地域経済の建て直し」は、松前町としても喫緊の課題である。当町としては、本プロジェクト着手へのチャンスをいただき、「一燈照隅 万燈照国」の気概をもって、町民一丸となり、地域再生に向けた取り組みを進めたい所存である。

## 地域再生プロジェクトの内容

<p><b>住民・民間団体等との協働</b></p> <p><b>事業実施体制の考え方（役割分担）</b></p> <p>基本的には「協働のまちづくり推進協議会」（別紙団体一覧）が事業の実施主体となり、行政は側面支援の役割を担う。ただし、行政が実施主体であることが適当な事業については、町が担うこととする。また、財源負担については、各団体の自主事業として位置づけることを基本としている。</p> <p><b>地域再生プロジェクト企画立案における連携（地域意見の把握方法など）</b></p> <p>当協議会には4つの部会が設置され、それぞれの分野に関係する団体のほか、23の町内会がいずれかの部会に所属し、自主的に地域課題を設定している。本プロジェクトの企画立案は、これまで行われた議論をベースに事業構成したものであり、地域の意見が反映されたものと言える。</p>	<p><b>協働のまちづくり推進協議会（本年5月設立）</b></p> <p>町内126団体による協議組織</p> <p>会長：松前町町内会連合会会長</p> <p>産業活性化部会、美しいまちづくり部会、思いやりのあるまちづくり部会、地域育成部会</p>
<p><b>取組内容の独自性（先駆性）</b></p> <p>事業内容の検討に当たっては、長期総合計画策定の時期と重なったこともあり、「10年後に想定される町の状況」に視点を置いて議論を重ねてきたため、将来的な課題を見据えたものになっている。また、各部会及び傘下団体ごとに綿密な話し合いにより地域資源を活用した事業計画を立て、計画から活動まですべてを住民が主体となって汗を流す考え方になっており、松前町においてはこれまでにない独創的な取り組みと言える。さらに、町内の全ての団体が関与しているという点で、他の地域の先導となるものとする。</p>	
<p><b>地域の資源・資産の活用方法（優位性）</b></p> <p>事業内容は、「マグロ」や「桜」といった地域資源を活用したものの他、本道における教育・文化の発信地として地域風土に着眼した「町独自の教育指針」や「書によるまちづくり」、北海道最南端に位置する地理的特性から「花観光の取り組み」、古くから「お互い様」という言葉がある相互扶助の風土に根ざした「地域ケア」の取り組みなど、町のもつ様々な特質を汲んだ協働の取り組みであり、総合計画における主要施策と重なる点も多く、相乗効果が期待できる。</p>	
<p><b>支援期間終了後における地域再生プロジェクトの展開（継続性）</b></p> <p><b>・事業の実施主体について</b></p> <p>事業の実施に当たっては、「協働のまちづくり推進協議会」が実施主体となり、実践においては傘下の各団体が自主事業として実施していくこととなるため、継続性が見込める。また、当該事業は、総合計画と方向性を一にするものが多いことから、交付金支援終了後も、町として継続的な取り組みをしていく。</p> <p><b>・財源の考え方</b></p> <p>個別事業ごとに、町内会、各種団体等傘下団体がそれぞれに人的資源を含めた負担をすることを基本としている。また、町は、町内会や各種団体等傘下団体が行う協働のまちづくり事業に対して、交付金制度を創設する考えにあり、人的活動は自助と共助による実践を期待しながら、活動に伴って発生する実費など、公助の観点から支援すべきものについては対処し、過度に地域住民の負担が大きくなるよう配慮する。</p>	

# 地域再生プロジェクトを構成する事業の概要

(千円)

事業名		実施主体	区分	実施期間	(全体事業費) 19事業費	事業の概要	今年度の内容
1	松前本マグロブランド化事業	町団体	補助	19～23	(14,000) 3,745	「松前本マグロ」のさらなるブランド化を目指し、生産者・漁組・飲食店等の連携により、松前の食の魅力を高め、商品価値の向上及び交流人口の増加に努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トレーサビリティブック作成</li> <li>・ご当地グルメ開発事業</li> <li>・ブランド化研究会の設置</li> </ul>
2	松前夫婦桜「夫婦の手紙」コンクール事業	団体	補助	19～23	(5,000) 1,500	松前名木の「夫婦桜」を、夫婦の絆の象徴としてPRし、夫から妻へ、妻から夫への手紙を全国から募集。入賞作品の発表や入賞者の松前旅行などにより、都市部からの交流促進を図るとともに、松前の桜の知名度の向上に資する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・選考審査委員会の設置</li> <li>・夫婦の手紙コンクール開催</li> <li>・メディアを活用した広報活動</li> <li>・入賞作品の製本</li> </ul>
3	地域資源を活かしたコミュニティビジネス発掘事業	町団体	直営補助	19～20	(3,000) 1,300	町民が担い手となり、桜マスター、遊漁船ツアー、山岳ガイド、寺町修行など多彩な体験観光プログラムを開発。地域資源を活かしたコミュニティビジネスを立ち上げ、よって、交流人口の増加及び雇用機会の拡大を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・松前産業クラスター会議の設置</li> <li>・他地域の事例調査</li> <li>・体験観光プログラムの策定</li> <li>・パンフ、ホームページの作成</li> </ul>
4	23町内会総ぐるみ「地域ケアネットワーク」構築事業	町	直営	19～20	(800) 600	23の町内会ごとに、地域の支え合いのしくみを、「家族・肉親」、「友人・近隣・ボランティア」、「ヘルパー・保健師・民生委員」などの連携により作り上げる。また、健康な高齢者も地域ケアの担い手となる雰囲気づくりを行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実態調査、ニーズ調査</li> <li>・連絡会議の設置</li> <li>・モデル事業</li> <li>・研修会</li> </ul>
5	松前町独自の教育指針策定事業	町	直営	19～21	(1,000) 481	家庭・地域・学校の連携と、徳育・知育・体育のバランスを重視する「松前らしい公教育」のあり方を検討し松前独自の教育指針を策定。幼児期から青少年期までの教育の柱を構築し、普及を図るとともに、具体的施策を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部専門家を招聘し研修会実施</li> <li>・町民検討組織による協議会</li> <li>・アンケート調査</li> </ul>
6	「文化の香り漂う書のまちづくり」推進事業	町	直営	19～21	(61,000) 2,318	松前出身の書家・金子鷗亭の生誕100年を記念し、平成20年、創玄書道会(本部:東京都)の協力を得て、国内最大規模の「鷗亭の道」(石碑84基)を造成する。 また、書道講座など住民参加の文化活動を展開し、「書のまち・松前」を全国にアピールするとともに、青少年への書道を通じた教育を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・推進協議会の設立</li> <li>・書の講演会</li> <li>・書道講座</li> <li>・金子鷗亭記念席書大会</li> <li>・銅雀台瓦硯の購入</li> </ul>